

令和7年度
小川町地域おこし協力隊 活動報告書
(第1回地域おこし協力隊活動報告会)

令和7年9月
小川町 政策推進課

目 次

◆ <small>せんち</small> 泉地 春香	<small>はるか</small>	隊員	1
◆ <small>おだぎり</small> 小田切 敦史	<small>あつし</small>	隊員	3
◆ <small>すずき</small> 鈴木 林夏子	<small>りかこ</small>	隊員	4

小川町地域おこし協力隊 活動報告書

隊員氏名	泉地 春香(令和4年10月1日着任)	
自己紹介	<p>出身: 埼玉県ふじみ野市</p> <p>前職: 不動産の住宅相談アドバイザー</p> <p>趣味: 個人店めぐり</p> <p>写真は田植えイベントの時の様子</p>	
活動内容	<p>(1)地元農業の推進、情報発信、プロモーション活動</p> <p>(2)地元農産物のPRイベント等の企画運営</p> <p>(3)農家での農業研修及び、地域の農業関連組織での体験従事</p> <p>(4)消費者、民間事業者等への販売促進、地元農産物を使った新規メニューや加工品開発等の業務</p> <p>(5)町、農業関連組織、地域住民等との連絡調整、課題解決に資する業務</p> <p>(6)その他、農業振興に資する諸活動</p>	

1年間(令和6年10月～令和7年9月)の主な活動について	
おがわ学授業	<p>地元農業の推進、情報発信、プロモーション活動</p> <p>○発行物、記事の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おがわんプレス(vol10) ・農業祭チラシ、ポスターの制作 ・note にてイベントや小川町の農業情報のまとめ記事を執筆 <p>○おがわ学(小川小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地元食材をPRしよう！」ゲストティーチャー
サイクリングツアー	<p>地元農産物のPRイベント等の企画、運営</p> <p>○マルシェ等の出店(おがわんプロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さいたま organic fes、川越オーガニックマルシェの出店 <p>○シンポジウムとフォーラムの運営、サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業フォーラム(2月)、バイオガスシンポジウム(8月) <p>○イベント等の企画、運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるぐるツアーの開催(これまでに7回、累計100名以上の参加) ・農業を絡めたサイクリングツアーの企画、モニターツアーの開催 <p>主にインバウンドをターゲットにした内容の検討、実施(3件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おがわん隣人まつりの開催(2回) <p>おがわんの町内認知度を上げるための農場見学、試食、交流の機会</p>

小川町地域おこし協力隊 活動報告書

 幼竹活用	<p>町、農業関連組織、地域住民等との連絡調整、課題解決に資する業務</p> <ul style="list-style-type: none">・2軒の農家さんの有機JAS取得サポート・PGS(参加型認証システム)の取組・GOMAの会(金胡麻の共同栽培、農業者同士の交流促進)事務局 <p>女性農業委員、小川町の女性農業者、有機農業入門講座受講生/卒業生 等 3期目となる今年は40名が会に所属し、活動中</p> <p>⇒ゴマの専門商社への販売、農産物直売所等での小売りが開始</p> <ul style="list-style-type: none">・幼竹を活用した商品開発メンバー(農家との連携等の役割) <p>SOUfarm(農家)、paryo(発酵調味料)、YOUinc(コンセプト)</p> <p>⇒JA直売所を通した幼竹の仕入れ→加工→販売</p> <p>※販売は25年秋を予定</p>
---	---

今後の活動について

■今後の大きな方針

生産と消費、農村と都市を繋ぐ役割を持つような仕事をする

⇒異なる背景を持つ者同士が交わり対話することで、

地方をフィールドにした豊かな共創が生まれ、ひとも町も元気になる

※学びのため、一度町を出て実家に戻り、来年春に小川町に戻ってくる予定です

■小川町との関わり

・GOMAの会

生産を主に担う農家さんが手の回らない会自体の運営や、販促に関することで貢献する

7年度産からは、小売販売も開始予定。多くの人に手に取ってもらえるような販促を行う

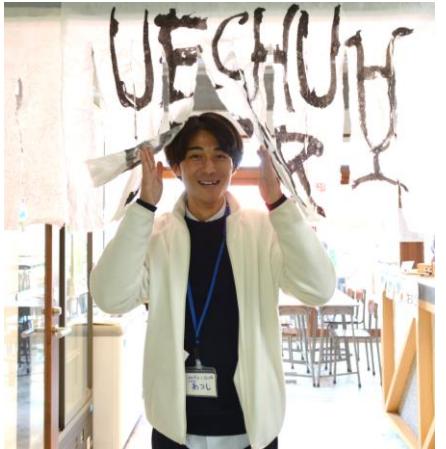
・幼竹メンマのプロジェクト

7年度産の商品制作にあたって、地元農家さんや竹林所有者の方との協働関係を築く

安定して制作できる関係性と環境づくりで貢献する

・農家さんとの繋がりを活かしたイベント企画 等

小川町地域おこし協力隊 活動報告書

隊員氏名	【小田切 敦史】(令和6年9月1日着任)	
自己紹介	【さいたま市出身、鍼灸師】	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東小川住宅団地のコミュニティ活性化活動 ・地域住民、事業者との連携 ・「スマリバ」を活用した情報発信 ・町の現状及び課題把握のための情報収集 ・その他地域の魅力向上に資する諸活動 	

1年間(令和6年9月～令和7年8月)の主な活動について

	<p>◎0円食堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格外野菜を活用した食堂を月1回開催 ・東小川地域の方を中心に30～50名の来客 ・UECHU へ足を運ぶきっかけ作りと地域のコミュニケーションの場づくりに貢献 ・0円食堂だけでは使いきれないほどの規格外野菜があることが課題、一緒に取り組んでいただける方がいれば…
	<p>◎町内の子どもと連携したものづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の学童や幼稚園の児童向けに、和紙に触れる機会を創出 ・自分の手で作品を作る楽しさを体験 ・完成した作品を道の駅に展示して鑑賞してもらう機会を創出 ・細川紙技術者協会と連携した活動に発展 ・児童施設の先生方の労力がかかること、また企画を継続していくための資金面について課題を抱える
	<p>◎小川芸術祭での地酒 BAR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一区画で小川町の地酒を楽しめる BAR をオープン ・地酒の PR に ・「東小川の徒歩圏内にお酒が飲める場が欲しい」というニーズを知ることができた ・BAR という印象から敷居が高く見えてしまったのか来客数が少なかったことが課題

今後の活動について

1年間お世話になりました。これからはより一層 UECHU が東小川地域の皆さんに親しんで利用していただける場となるよう力を尽くしてまいります。また折り返しの年として、卒隊後を見据えた取り組みを少しずつ始めていければと思っております。よろしくお願ひいたします。

小川町地域おこし協力隊 活動報告書

隊員氏名	【鈴木 林夏子】(令和6年9月1日着任)	
自己紹介	出身:宮城県仙台市 趣味:散歩、音楽、アウトドア等 前職:建築会社の建材部(営業・マーケ・開発等)	
活動内容	・LINE「小川町情報スモリバ」での情報発信 ・若者未来会議の活動の運営及び支援 ・その他、地域魅力向上に資する諸活動	

1年間(令和6年9月～令和7年8月)の主な活動について

	<p>【LINE「小川町情報スモリバ」での情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数:14,069人 ・スモリバ記事の配信回数:52回(目標48回以上→達成) ・地域の魅力に関する独自取材記事数:30件(目標10件以上→達成) <p>小川町の人物紹介やお店、地域のイベント、その他レポートなどを2週に1回以上配信しました。環境や業務に慣れながら、取材を通して小川町への理解を深め、多くの方々とつながることができた初年度となりました。</p>
	<p>【noteの更新、デザインの変更、スモリバカレンダー】</p> <p>過去記事をいつでも簡単に見返せるよう、情報の蓄積場所としてnoteを利用することにしました。《おがわのおみせ》《おがわのひと》などのカテゴリに分けていますため、小川町を最近知った方でも、過去の記事をまとめて読むことができます。また、スモリバのイベント情報はすべてカレンダーにまとめており、配信時期以外でも「今週は何かイベントがあるかな?」と気軽にご覧いただけます。</p>
	<p>【スモリバフリーペーパー】</p> <p>前任の木谷さんが作成した春号を4月に町内各所へ配布し、7月には鈴木が引き継いで夏号を作成して配布しました。LINEのスモリバにあまり触れていない層や観光客の方々にも手に取っていただいているようで、デジタルだけでなく紙媒体ならではの強みも活かせていると感じています。10月には秋号を作成する予定であり、来期も継続して発行していきたいと考えています。</p>

今後の活動について

初年度はまず業務に慣れることを重視しましたが、来期はスモリバの意義や目的を改めて確認しながら、小川町の魅力をより幅広く発信できる媒体へと成長させていきたいと考えています。新たな企画にも取り組む予定です。また、現在は一人で取材・編集業務を担当していますが、今後は他の地域や媒体のように、複数人が編集者として作成した記事を配信することで、より多角的に小川町の魅力を届けていけたらと考えております。